

1995年二月も二號出ている。10日號のCMO#155の巻頭ではNEWSFLASHが二つあり、Id氏が17Jan($\lambda=047^\circ$ Ls) $\omega=259^\circ$ W~ 278° Wで北極雲内に細い陰翳を観測していることDPk氏の観測からも確実であること、従って追求を、ということと、Mk氏が26Jan($\lambda=051^\circ$ Ls) $\omega=140^\circ$ Wでアルバに可成りの明斑を検出し、27Jan、28Janと追い、その後Iw氏、Mo氏によって追求されていること、1963年にも似たような観測があること、タルシス山岳雲の走りと関係するであろうから、よく追求することなどの注意がある。

CMOReportは一月後半($\lambda=046^\circ$ Ls~ 052° Ls)部分だが八頁の長編である。Aht氏、ESgさん、JWr氏、GTc氏、SWb氏を含めて、十六名の観測者が報告している。Iw氏が38枚、Mnが37、Mk氏が35枚などだが、今年(2005年)と違って天候がいいようで、前半は裏、後半は表日本が活躍している。TPではMo氏、VideoではHg氏が好成績、全體プロポンティスIやアエテリア暗斑を皆さん追っている。19Janには沖縄のHg氏が餘程シーイングがよかったようで、アエテリアの邊りの描寫は優れているとある。20JanにはMk氏がプロポンティスIの分離に成功しているようである。26Jan以降では上述のようにアルカディアの明斑の追求がMk中心に行われ、その詳細が載っている。28Jan $\omega=120^\circ$ WのMk氏のスケッチが引用されている。

LtEでは先のESgさんに続いて、CERETTA氏やAht氏、SWb氏の神戸震災に対する見舞いが来ている。長谷川一郎氏、松本達二郎氏からは被害についての報告のお見舞いに対するお返事となっている。

25日號のCMO#156のCMOReportは十頁で二月前半($\lambda=053^\circ$ Ls~ 059° Ls)の観測を扱っているが、この間欠日があった由である。視直径は11Febで13.85"で最大となった。二月の冬の割に好い条件の日があったようで、2FebにはIw氏は像の微動だにしないシーイングに出あっている(過去にない経験)。ニロケラスの双葉型邊り。7FebにはIs氏がB390でテンペがマレ・アキダリウムより暗い像を出したのが興味深い。Mk氏は7Febあたりから、クリュセをかなり詳しく追っている。Mk氏はこの頃には方法が確立してきたのであろう。

10,11,12Febはオールナイト合同集中観測日であった。大まかな観測報告がある。天候の具合は芳しい方ではなく、三日連続で観測できたのはIwだけだったようである。Id氏が低調であった。多分天候の所爲であろう。然し、10,11Janはそれぞれ可成りの観測をコナしていて比較がされている。11Febが最接近日、最高視直径13.9"。12Febが衝だから、典型的な小接近であった。13Feb以降ではシヌス・サバエウスからマレ・セルペンティスが好く捉えられている。14FebにはHk氏も7/10のシーイングを得ている。三月にはハーフナイトをするという予告がある。

LtEではMk氏はいろいろ活躍している。編集部に入る前である。「一点点・一天天」ではフラマリオン(Camille FLAMMARION 1842-1925)が1868年に気球に乗った話が紹介された。Ns氏が華燭の宴を挙げるとあるから、早十年ということになりますな。

